

研究課題	新型コロナワイルスワクチンの小児における発症・入院・後遺症予防効果の検討
支援番号	GC03920233
研究事業期間	令和5年4月1日から令和7年3月31日
助成金総額	950,000
研究代表者 (所属機関)	相澤 悠太 (新潟大学大学院医歯学総合研究科 小児科学分野)
研究分担者 (所属機関)	太刀川潤 (新潟大学)、羽深理恵 (新潟大学/新潟市民病院)、山中崇之 (新潟市民病院)、齋藤昭彦 (新潟大学)
研究キーワード	新型コロナワイルス ワクチン 小児
研究実績 の概要	<p>・発症予防効果について</p> <p>2023年4月から10月の期間で検討した。</p> <p>生後6か月から4歳の年齢層では、2253人が研究に参加し、262人(11.6%)が症例で残りの1991人が対照であった。最終接種から3か月以上経過後、ワクチン3回以上接種者のVEは59%(95%CI, 13-81%)であった。オリジナル株BNT162b2mRNAワクチンを3回以上接種した生後6か月から4歳の小児では、オミクロン株によるCOVID-19発症予防効果は最終接種から少なくとも3か月は保たれていた。</p> <p>5歳から11歳の年齢層では、1770人が研究に参加し、418人(23.6%)が症例、1352人が対照であった。ワクチン3回以上接種者のCOVID-19発症予防に関するVEは接種3か月以内では73%(95%CI, 29%-90%)であった。接種から3か月以上6か月以内では39%(95%CI, -22%—70%)、6か月以上では-11%(95%CI, -65%—26%)に低下した。</p> <p>本研究によって、既報と同等、もしくはそれ以上のワクチン有効性を新潟の子どもにおいて確認できた。</p> <p>・入院予防効果について</p> <p>入院が1名しかおらず、入院予防効果の評価はできなかった。</p> <p>・後遺症予防効果について</p> <p>調査に同意した2274人のうち520人(11.6%)から回答が得られ、その内の507人(97.5%)を解析した。全体の年齢中央値は4歳(四分位範囲IQR: 2-8歳)、男児は51.1%、ワクチン3回以上接種者は27.0%で、SARS-CoV-2検査陽性者は91人(17.9%)だった。遷延する症状は全体として25人(4.9%)に報告された。検査陽性群のうち遷延する症状を有したのは8人(8.8%)で、年齢中央値3歳(IQR: 2-5.3歳)、男児7人(87.5%)、ワクチン3回以上接種者4名(50%)、最多の症状は咳6人(75%)であり、鼻汁2人(25%)、眠気と集中力・思考力・記憶力の低下がそれぞれ1人(12.5%)であった。COVID-19罹患の有無と遷延する症状を有する割合に有意差は無く、ワクチンによる後遺症予防効果の評価は困難であった。COVID-19罹患後の遷延する症状を有する児の診療体制を引き続き確保していくことが重要である。</p> <p>2024年4月までのデータを追加して解析し、その結果のまとめを英語論文として投稿予定である。</p>